

神戸国際コンテナターミナル 太陽光発電設備を稼働開始

商船港運株式会社（社長：居城正明、本社：神戸市、以下「当社」）は、この度、神戸国際コンテナターミナル（以下「KICT」）において、太陽光発電設備を稼働させました。

KICTは、当社株主である株式会社商船三井（以下「商船三井」）、山九株式会社、株式会社住友倉庫、及びニッケル・エンド、ライオンズ株式会社が共同で借り受け、当社を含めた港運4社にて共同で運営を行っております。現在、2026年度中の完成を目指してPC14～17バース、並びに後背地を含めた拡張工事を進めており、完成後は西日本最大規模のコンテナターミナルとなる予定です。それに先駆けて、神戸フレートセンター（KFC1）、梱包上屋（KFC2）、及び西共通ゲート棟の屋上三か所に、合計で1,200kWを超える規模の太陽光パネルを設置し、稼働を開始致しました。

本件は神戸市環境局が「脱炭素先行地域」として、ポートアイランドの「港湾エリア」と「医療産業都市エリア」を結び、脱炭素で「いのちを守るまち」への進化を目指す取り組みの一環であり、また、神戸市港湾局が取り組む「カーボンニュートラルポート」の推進を支える事業の一環となります。

年間発電量は140万kWhを超える見込みで、KICTの管理棟の全電力を賄うことが出来る一方、KFC1、並びに西共通ゲート棟には、電気自動車への充電ケーブル（計3機）を含めた充放電設備を配備しており、停電時においても、隣接する事務所、並びに電気自動車への給電を行うことが可能で、災害時等の司令塔として、BCP対策も兼ね備えた設備となります。

当社では、2025年4～6月にトランスファークレーンの水素エンジンによる実証実験を行った一方、ターミナル拡張に向けて、電動トランスファークレーン12機の導入を進める等、環境対策への取り組みを積極的に進めており、商船三井が2050年までのネットゼロ・エミッションを目指す「商船三井グループ環境ビジョン2.2」をサポートしています。

神戸市 記者発表資料：<https://www.city.kobe.lg.jp/a73498/004247817507.html>

(1) 設置場所	神戸国際コンテナターミナル (KICT) 神戸フレートセンター (KFC1) 梱包上屋 (KFC2) 西共通ゲート	
(2) 設置面積	5,864.94 m ² 太陽光パネル (1,752 mm×1,134 mm) 2,952 枚	
(3) 発電容量/蓄電容量	1,299.88kW (太陽光) /117.6kWh (蓄電池)	
(4) 年間発電量	1,402,790kWh 一般家庭約 355 世帯分に相当	
(5) 環境貢献効果	二酸化炭素削減量	622.84 t - CO ₂ /年



太陽光発電設備



充放電設備

以上